

115/4/14

軍事費 日本後退9位

167%、ロシアは97%、
インドは39%、韓国は34%、
の増加だったのに対し、日本
は3・7%減少した。円安が影響
したとみられるが、アジアの中
で相対的低下が目立つ。財政支出の削
減を進める米国は05年比で
0・4%減った。

【ロンドン共同】スウェーデンのストックホルム国際平和研究所(SIPRI)は13日、2014年の世界の軍事費（一部推計値）について発表した。日本はインドヒドゥイツを下回り、13年の7位から9位に後退した。中国は13年比9・7%、ロシアは同8・1%も急増したと推計した。

昨年 中国とロシア急増

2014年の軍事費上位10カ国

順位	国名	軍事費 (05年比%)
1 [1]	米国	6100 (▼0.4)
2 [2]	中国※	2160 (167)
3 [3]	ロシア※	845 (97)
4 [4]	サウジアラビア	808 (112)
5 [5]	フランス	623 (▼3.2)
6 [6]	英国	605 (▼5.5)
7 [9]	インド	500 (39)
8 [8]	ドイツ※	465 (▼0.8)
9 [7]	日本	458 (▼3.7)
10 [10]	韓国	367 (34)

(注)単位は億ドル、〔 〕内は前年順位、※は推計、▼はマイナス。ストックホルム国際平和研究所調べ

る割合は1位の米国が34%にまで低下する一方、2位の中国が12%に伸長。3位のロシアは4・8%、4位のサウジアラビアは4・5%。ロシアによる事実上の侵略を受けたウクライナの軍事費は、13年に比べ23%増加したと推定。戦費を全て計算すれば、最終的な数字はさらに増えると推測した。周辺の東欧・バルト諸国でも、ロシアの脅威に対する警戒感が高まり、ポーランドの同13%増をはじめ、増加が顕著になった。周辺で紛争が相次ぐサウジアでは、南シナ海で領有権をめぐり中国と対立するベトナムも同9・6%増

日本は軍事的役割を…

A15/4/9

日本のアジア太平洋地域での軍事的役割について、米国では約5割の人が「より積極的に役割を果たすべきだ」と答えたのに対し、日本では約7割が「制限すべきだ」と役割拡大を否定的に見ていることが、米調査機関ピュー・リサーチ・センターが日米両国で実施した世論調査で分かった。

調査は、米国では2月中旬、日本では1月末から2月中旬まで、18歳以上の各千人を対象に電話で実施。日米両国は3人に2人以上が互いの国を「信用できる」と回答したが、「中国を信用できる」と答えたのは、米国では30%、日本では7%にとどまった。

ただ、米国で、経済的結びつきで日中のどちらが重要か聞いたところ、「中国」を挙げる人が43%で、

「日本」の36%を上回った。特に18歳から29歳の若者層でその傾向が強く、6割強が「中国」と答えた。

日本の戦時中の行為について「日本は十分謝罪した」と感じる米国人は37%で、「謝罪の必要はない」が24%、「不十分」は29%だった。一方、米国の原爆投下について、米国人の56%が「正当化される」と答え、「正当化されない」は34%。逆に日本では79%の人が「正当化されない」と答えた。

また、日本の有名人や企業の名前を挙げて印象を尋ねたところ、米国でイチロー選手に好感を持つ人は47%だったのに対し、安倍晋三首相への好感は11%にとどまり、7割超が名前を聞いたことがないと答えた。

米国人の5割「拡大すべきだ」日本人の7割「制限すべきだ」

米機関調査